

二〇一八年度

一般公募推薦入学試験

## 【適性検査】

### 「国語」問題

1. 問題および解答用紙は試験開始の合図があるまで開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 試験終了後、解答用紙を問題の上にふせて置いてください。
5. 回収するのは解答用紙だけです。問題は持ち帰ってください。
6. 「国語」の問題は1ページから5ページまでです。

1 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

1 私は、演劇の世界に入ってから数十年、演出の仕事をしてきたから、つきあった役者の中に、幼い頃から日本舞踊をやってきた人に何人も出会った。私にとっては、これはナンブツであった。なぜかという、かれらは一様に、ある日、たとえばセリフの言い方にダメを出されたとなると、次の日、その出されたダメを自分で理解する限りにおいて、その通りに実に正確に直してくるのである。私にとってみると、ダメを出すということは、その人が今まで自分の持ち合わせの技術で何とかこなしていたことを突き崩して、新しい想像力でもう一度自分の表現を見つけ直すために提出するサゼッション<sup>※1</sup>に過ぎないのであるが、かれらはそれを、最終的な結果を指示したとばとしてしか受け取らない。だから私は、その次の日には、その生気のなさに腹を立てて、全く逆のダメを出すことになる。すると次の日には、また、その通りの、そして、全く前の日と同じ次元の生気のなさで、ただ形だけが変わった結果が表れてくるのである。日本舞踊の場合、確かに、一つの手、一つの足の動きまで、<sup>(B)</sup>シショウウの言う通りに形を整えてこななければ、稽古は先へ進まない。そのような稽古の仕方をすることは確かであるが、型を受けつぐとか、振りを取るとかいうことばで言い表されている行為は、なにを意味するのかについては、かなり理解があいまいなように思われる。

2 第一に、身振りそのものをそっくりそのままねをするということと、それは理解されている。しかし、これはそんなに簡単にできることかどうかである。これは、初歩的な段階の例ではないが、私が女性舞踊家として最も尊敬した故人（西川小雪）のことについて、これも一流の舞踊家と話していた時、かの女がこう言ったことがある。あの人の踊りはすごかった、と。あの人のある踊りの手（動き）が実にすばらしいので、何とかしてそれを取ろうと思って、毎日のように舞台脇に坐<sup>すわ</sup>ってそれを見て取ろうとしたけれども、私にはどうしてもできなかった、と。外から見れば、手がどのように引かれ、どのようにひるがえり、どのように伸ばされるかということに過ぎないのであって、フィルムにとつてスローモーションで研究すれば、すぐにできそうなことだが、しかし、一流が一流を取ろうとすると、それはできたことにはならないということなのであろう。ということは、第二のことになる。つまり、型を取るということは、その型をなしているイメージを受け取る、あるいは自分の中で発見する、そのイメージをかもしれないからだを、自らのうちに発見することだということである。たとえば、民俗芸能などでも、扇の一つの開き方でさえ、それはたださし出すのではなくて、天から舞い降りる雪を受けるのだというような言い方で、古老が若い青年に教える。開いたとたんにフツとからだだが、そのイメージによってピタッと決まって動いた時、その型が受けつがれたということになるのである。

③能に、女役が泣く型がある。面をややうつ向け、右手が下からすうつと上がってくる。そして、面のやや前で止まる。これは古来、涙をぬぐう形なのだと言われてきたようであるが、昭和の初めの名人と言われた金剛巖氏が、ぬぐうのではなく、涙を隠すのだと言われたということが、名言として私たちに伝わっている。確かに、面からかなり離れたところで止まっている手を外から見てみると、ぬぐうというのは無理であって、隠すと言われると、ピタリとする。しかし、もう一つ考えてみると、これはシオルという型であって、シオルはしおれると同根の語である。しおれるということは、全身が内から生気がなくなっていくことを意味する。涙がせきあげてくるというような時は、むしろ、激情がどうか、命が噴き上げてくるような時もあるであろう。そういうことは違って、全身がしおれて、そして、内に向かって求心的に縮んでゆくという形がおのずと、手をもまた引き上げてくるのではあるまいか。そのような基本的な全身のイメージを、型として固定した時、それを伝承するという行為が始まる。それを、「受ける」演者が改めて自らの時代、自らの肉体の感覚において、イメージを発見しなおす時、先ほどの名言のようなことばが生まれてくるのであるが、涙を隠すというような言い方は、いかにも近代的な心理主義、あるいはリアリズムのにおいがするのであって、次の時代の能の演者のからだにおいて、もう一度シオルという感覚へ立ちもどらなければならぬのではあるまいか。

④型というと、東洋、特に日本ではあらゆる表現、特に芸術的表現につきもののように思われており、それに比べて、たとえばヨーロッパなどでは、もっと自由であるように思われている。だが、たとえばイギリスの小学校におけるムーヴメント※2の授業などのフィルムを見ていて、日本の教育関係者が、その自由さ、表現のゆたかさに感服する声を聞くと、私は疑問を持たずにはいられない。これらの動きはのびやかであるが、しかし東洋人、あるいは日本人の目から見ると、それは、いかにもヨーロッパ的なくつかの身振りが、複雑に組み合わせられている。つまり、組み合わせが自由なだけであって、身振りの基本形そのものはパターンであるというふうにしが見えないことが多い。おそらく、アフリカでも中南米でも同じことであろう。そして、それが **I** というものであるに違いない。そして、ゆたかな表現の創造という仕事は、そのパターンをいかに自在に組み合わせていくか、つまり一つの型を支えているからだの感覚、からだの創造力を読み変え、そして組み替えていくという作業が、いかに自由に行われるかということと、もう一つは、その型をいかにこわしていくかという二つの作業の先にあるのであろう。

(竹内敏晴『思想する「からだ」』より)

※1 サゼッション：暗示。示唆

※2 ムーヴメント：ダンスや遊戯などからだを使った活動

問1 — 線部(A)・(B)のカタカナを漢字に改めなさい。

問2 — 線部(1)とありますが、筆者はなぜ「全く逆のダメを出す」のですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 演じ手が、それまで自分の持ち合わせの技術で何とかこなしていたことを、懸命に突き崩そうとしているから

イ 演じ手が、指摘された内容を、最終的な結果を指示したことばとしてしか受け取っていないことがわかるから

ウ 演じ手が、自分自身の表現の可能性を探ったはずなのに、演技として生気のない形を提示してくるから

エ 演じ手が、演出家に言われたことを自分で理解することができないまま、不正確な表現に仕上げてしまうから

問3 — 線部(2)「それ」の本質を、筆者はどのようなのだと説明していますか。最も適当な一文を①②段落の中から探し、はじめの五字(句読点含む)を答えなさい。

問4 — 線部(3)「ぬぐうのではなく、涙を隠すのだ」という「名言」に対する筆者の考えを説明したものととして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「女役が泣く型」を「涙を隠す」というのは、演者が自らのからだにおいて再発見した感覚を表したものととして確かに「名言」である。しかし、次の時代の演者はもう一度「型」を支えている感覚それ自体を想像しなければならぬ。

イ 「女役が泣く型」を「涙を隠す」というのは言い得て妙である。この「型」における手の位置は確かに演者の面からかなり離れたところで止まっている。涙をぬぐうことはどだい無理であって、隠すと言われるとしっくりくる。

ウ 「女役が泣く型」を「涙を隠す」というのは、「しおれる」という状態をうまく表現しているように思えない。涙がせきあげてくるというような時は、むしろ、抑えきれない感情がわいてくるような場合もあるからだ。

エ 「女役が泣く型」を「涙を隠す」というのは「名言」と言われている。けれども、伝統的に「名言」だからといって、伝えられた言葉を客観的な検証もせずに間違いないものとして信じてしまうことには注意しなければならない。

問5 空欄 I に当てはまる最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 文明    イ 自由    ウ 模倣    エ 文化

問6 本文をふまえた筆者の考えを説明したものととして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 演者は演出家が抱いているイメージをきちんと把握した上で、求められる表現行為を「型」として追求しなければならない。

イ 表現を創造するというのは、「型」を支えているからだの感覚を科学的に細分化した上で乗り越え、まったく新しい「型」へと作りかえていくことに本質がある。

ウ 「型」を形成するイメージを抜きにして、外から見た形にだけこだわってしまう時、表現は自由からもっとも遠ざかってしまう。

エ 「型」の伝承を途切れさせないためにも、いかに「型」から自由になれるか、伝えられた「型」をどうこわすか、が問われている。

2 次の文章は『伊曾保物語』の一節です。本文を読んで後の設問に答えなさい。

ある土器かはらけを作りて、いまだ焼かざる前に乾しけり。<sup>(1)</sup>この土器思ふやう、「**さても**、我が身は果報めでたきものかな。あるひは田夫野人※1の踏み物たりし土なれども、かかるめでたき折節生まれ合ひて、人に愛せらるることのうれしさよと、慢(2)じ居けるところに、夕立かの土器の側に来て申しけるは、「御辺(3)は何人にておはせしぞ」と問ひければ、土器答へて云はく、「我はこれ、帝王の土器なり。卑しき者の栖すまひに居たることなし」と申しければ、夕立申しけるは、「御辺は、本を忘れたる人なり。今、さやうに、いみじく誇り給ふとも、一雨、頭にかかるならば、たちまち本の **A** と成りて、かまどや、垣壁※2に塗られなんす。人もなげに、慢(2)じ給ふものかな」といひて、俄にはかに夕立、雷騒いで、かの土器を降りつぶしければ、本の **A** にぞなりたりける。

※1 田夫野人………田舎の農夫

※2 塗られなんす………塗られることになる

問1 ——線部(1)「この土器思ふやう」とありますが、土器が思った内容が記されているのは「さても」からどこまでですか。終わりの三字を解答欄に記しなさい。

問2 ——線部(2)「慢じ居ける」とありますが、この部分の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 乾燥に適した季節になり、立派な土器に仕上げられることを誇らしく思っている。

イ 今までの苦勞が報われて、土器として焼かれることになった幸せに浸っている。

ウ 人に踏まれることのない、愛用される土器になることを得意に思っている。

エ ようやく納得のいく帝王の土器が完成し、いつまでもその喜びに浸っている。

問3 ——線部(3)「御辺は何人にておはせしぞ」は誰の発言ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 土器   イ 田夫野人   ウ 夕立   エ 帝王

問4 空欄 **A** に当てはまる最も適当な語句を本文中から探し、解答欄に記しなさい。

(以下余白)

